



# JAPIC NEWS

Japan Pharmaceutical Information Center

# 7

No.458

July 2022

## ■ 巻頭言

### 国民の健康と社会を守るワクチン ー日本のワクチン企業の矜持ー

一般社団法人 日本ワクチン産業協会 理事長 今川 昌之 ..... 2

## ■ コラム

### iyakuSearchで調べる新型コロナウイルスワクチン情報 ～医薬文献・学会演題情報～

(一財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当 藤巻 沙織 ..... 4

### くすりの散歩道No.146「ゆるめる10分さんぽ」

(一財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当 湯原 瑞紀 ..... 7

## ■ インフォメーション

7月末発売! ..... 8

JAPIC「医療用・一般用医薬品インストール版 2022年7月版」

JAPIC「OTC医薬品CD-ROM 2022年7月版」

医薬品集発刊! ..... 9

JAPIC「医療用医薬品集 2023」CD-ROM付 9月初旬発刊

JAPIC「一般用医薬品集 2023」 9月初旬発刊

JAPIC「医療用医薬品集 薬剤識別コード一覧 2023」 8月発刊

■ 外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報よりー(抜粋) ..... 10

■ 図書館だより No.384 ..... 11

■ 情報提供一覧 ..... 11

50<sup>TH</sup>  
ANNIVERSARY

JAPIC  
Japan Pharmaceutical Information Center

一般財団法人 日本医薬情報センター

## 国民の健康と社会を守るワクチン —日本のワクチン企業の矜持—

一般社団法人 日本ワクチン産業協会  
理事長

今川 昌之 *Imagawa Masayuki*



日本医薬情報センターのJAPIC NEWS7月号の刊行にあたり、最近の予防接種やワクチンをめぐる劇的な動きの中から、ワクチンを開発・生産・供給すると同時に、その情報収集と情報提供を日々継続している製薬企業の立場からの期待と抱負を述べさせていただきます。

### 新型コロナワクチンが顕在化させた課題と期待

2020年から世界的な流行が続いている新型コロナウイルス感染症は国際社会において人々の命を脅かしたのみならず、世界経済にもリーマンショックを超える負の影響をもたらし、感染症対策が社会生活・社会インフラを維持するために如何に重要であるかを再認識する機会となりました。2018年はスペイン風邪のパンデミックから100年の節目の年であり、感染症対策の重要性を再認識したところでありましたが、20世紀初期と比較して医療や感染制御対策が目覚ましい発展を遂げた今日においても、再び世界規模でのパンデミックの波が繰り返し起こったことは、新型コロナワクチンの開発・生産・供給に限らず、新たな感染症の予防と対策に向けた人類のさらなる努力の必要性を問われていると認識しております。

新型コロナワクチン開発では欧米が通常10年程度必要となるワクチンの実用化を約1年に短縮して実現し、またmRNAワクチンの技術による製品開発を成功させるなどのイノベーションを起こしました。日本での新型コロナ感染症対策では、「3つの密（密閉・密集・密接）」を避けることを徹底したことに加えて、欧米で開発された新型コロナワクチンを早期に導入し、効果的に集団接種などを進めたことで、欧米など他の先進国と比べて感染者数や死者数を低い水準に抑え込むことに成功してきました。しかしながら、依然としてパンデミックが収束する見通しは立っておらず、さらに欧州のワクチン輸出規

制、米国の国防生産法による原材料資材の輸出制限などワクチン輸入調達のリスクが顕在化していることから、輸入に頼らないワクチンの国内生産に対する需要と期待は高まりをみせています。この課題解決に向けて日本国政府はワクチン開発・生産体制強化戦略を2021年6月に公表し、政府が一体となって必要な体制を再構築して長期継続的に取り組む国家戦略をとりまとめました。2022年に入り、国内生産ワクチンの実用化も一部実現しつつあるものの、未だ十分とは言えず、業界といたしましては国産ワクチンの実用化の更なる充実喫緊の課題であると考えております。さらに新型コロナ感染症のみならず、次の新たなパンデミックへの備えも視野に入れて、現在、ワクチンの基礎からの研究開発、臨床開発、新たな基盤技術を利用した生産体制構築等に向けて、産業界も政府の取組に積極的に参加させていただいております。

### 平時からの感染症対策とワクチンの重要性

感染症対策は国民を感染症の脅威から守るとともに、社会インフラ及び経済活動を維持するために不可欠な国を挙げての施策であり、平時の予防接種施策をしっかりと行うことで感染症のパンデミックへの備えにつながります。我が国の平時におけるその他の感染症対策については、2013年4月の予防接種法の改正と2014年3月の予防接種に関する基本計画の策定などにより、予防接種事業の方向性が示され、いわゆるワクチンギャップを解消するための定期接種ワクチンの追加、成人男性に対する風しんの追加的対策などが進められてきました。2015年3月にはWHO西太平洋事務局から、日本は麻しん排除を達成したと認定されたのもMRワクチンによる予防接種の成果と言えます。

一方で、おたふくかぜワクチンや帯状疱疹ワクチン等については、現在も定期接種化が検討中となっています。ワクチンの多くは定期接種に組み入れられ、その必要性が推奨されるとともに経済的負担がなくなることで広く普及することから、ワクチンの開発・実用化には、薬事承認に加えて予防接種法に基づく定期接種化も重要なステップとなります。平時から現存する感染症に対する予防接種実施のためのワクチンの開発改良と普及の努力を続けることが、次のパンデミックに備える基盤を確保するためにも重要であることを関係者が共通に認識することに期待いたします。

### ワクチンの開発・生産・供給に関する産官学の連携

感染症対策の重要性が唱えられても、一方で、公衆衛生の向上とともに感染症への関心は下がり、医薬品市場としては低成長であったことや、訴訟リスクへの恐れもあって、企業の立場だけではワクチン開発や設備投資には積極的に取り組めて来ませんでした。また、産学においてワクチン創薬に関する知見が充分ではなく、グローバルな課題に対応する人材も集まりにくい環境がありました。こうした状況は感染症治療薬にも共通した課題であろうかと思われまます。世界的パンデミックの経験からワクチンの開発・生産・供給が皆様の健康保持とともに社会の安全保障にも寄与することがクローズアップされたことで、産官学が国の司令塔機能とともに一堂に会し、国を挙げて国内外の関係者が連携して取り組みを継続的に進めていくことが期待されます。

また、ワクチンの開発と定期接種化を戦略的に進めていく基盤として、国内外の感染症動向や疾病負荷等のデータ評価を産官学が共有し、国の戦略に基づいた一貫性のあるワクチン実用化推進体制の整備と支援策が重要と考えております。

### ワクチンに関するコミュニケーションは世界的な課題

これまでワクチンや予防接種に対しての啓発や教育は十分とは言えない状況がありました。近年では世界保健機関:World Health Organization (WHO) が定義する非感染性疾患 (NCDs) が世界の死亡原因の第一位となり、先進国のみならず発展途上国においても感染症の脅威に対する意識が低下していたのではないかと考えられます。2000年代になり、SARSやMERS、エボラ出血熱など世界の公衆衛生を脅かす感染症が報告されても、感染症が猛威を振るうのは基礎的な公衆衛生上の感染症対策が脆弱な地域や国の問題であって、日本をはじめと

する多くの国ではエンデミック地域での封じ込めや水際対策で対応可能であると過信していたように思えます。世界保健機関 (WHO) は2019年に「世界的な健康に対する脅威」のトップ10のひとつに「Vaccine Hesitancy」(ワクチン忌避) を挙げました。世界的に有効な感染症対策として予防接種を進めるにはワクチンへの信頼が十分得られていないと障害になることが警告され、ワクチンや予防接種に関するコミュニケーションが有効なツールとされました。我が国においても、予防接種に対する理解度の低さや一方で「Vaccine Hesitancy」(ワクチン忌避) への意識の高さは世界的にも有名であり、新型コロナワクチンの普及を妨げる最大の課題と言われました。

新型コロナワクチンの接種が全世界で進められたことの経験から、ワクチン接種の判断となる信頼性の高い情報に基づき、感染症に対する個人の重症化予防や集団免疫の重要性への理解が促されるとともに、ワクチンの接種を希望する方が確実に接種できる体制が確保されることで、安心感が広まることで、ワクチンが感染症対策に重要であることが今一度広く認識されるようになったと期待しております。

### ワクチンの正しい理解への取り組み

わが国のワクチン関係企業が集結する一般社団法人日本ワクチン産業協会は、昭和21年(1946年)に細菌製剤協会として設立し、七十五年余の歴史と伝統を受け継ぎつつ、ワクチン産業は感染症対策と公衆衛生の向上において重要な役割を担ってまいりました。ワクチンの普及啓発活動はその柱のひとつであり、例えば、「予防接種に関するQ&A集」は予防接種法に基づく定期接種などの解説に加え、医療機関での予防接種の実施にあたっての疑問などに行き届いた内容としております。また、一般の方向けにも、ワクチンで防げる病気 (VPD) はワクチンで予防する環境を一層推進するための啓発活動を進めております。

感染症予防の必要性やワクチンなどの感染症対策に関しての小中高等学校での学童教育に向けた取組や、医学教育・医療従事者向けの研修などにおける予防接種に関する教育・研修カリキュラムにも働きかけを行っているところです。

ワクチンも医療用の医薬品であり、その有効性、安全性、品質などに関する正しい情報が付加されることが必須です。ワクチンを正しく理解いただき、正しく使用していただくための情報提供に関係者とともに取り組んでいくところです。これからもみなさまのご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

# iyakuSearchで調べる 新型コロナウイルスワクチン情報 ～医薬文献・学会演題情報～

一般財団法人 日本医薬情報センター 医薬文献情報担当

藤巻 沙織 Fujimaki Saori

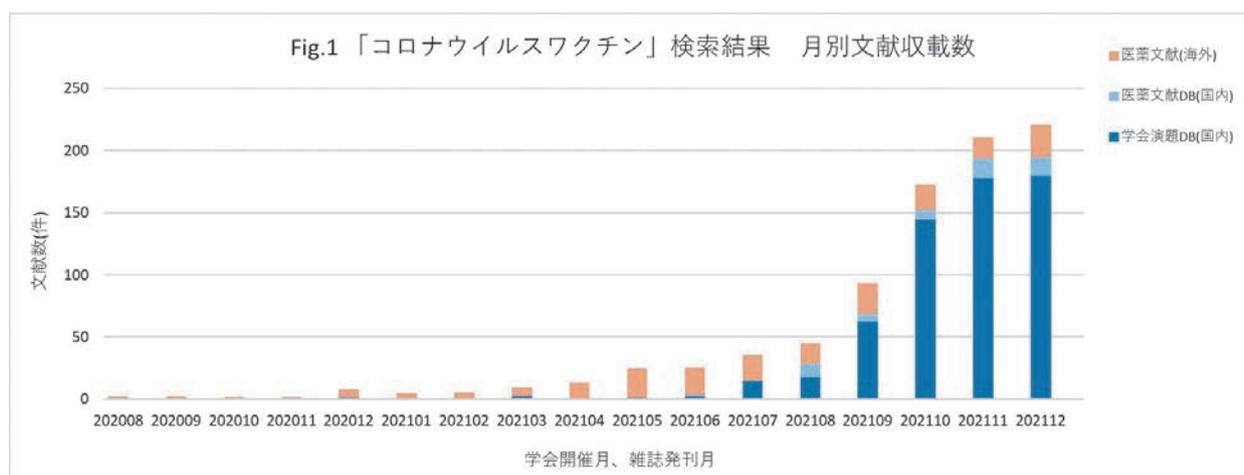
新型コロナウイルス感染症が全世界で猛威を振るい始めて早くも2年以上がたちました。一刻も早い収束が望まれますが、日本では2022年6月上旬時点でなお連日1万人前後の感染者が出ているのが現状です。感染拡大に歯止めをかけるべく、世界中の製薬会社が新型コロナウイルスワクチン（以下、ワクチン）や治療薬の開発に尽力しており、各国で国民へのワクチン接種が進みました。接種が進んだことで、各所からワクチンに関する様々な報告がなされるようになり、JAPICが提供している医薬品情報データベース「iyakuSearch」にも関連した情報が集まっています。

そこで今回はiyakuSearchの中の「医薬文献情報」「学会演題情報」を用いてワクチンに関する情報について検索したので、その結果をご紹介します。

まず初めに、情報を網羅的に収集するために検索語を「コロナウイルスワクチン」と設定しました。国内開催の約5,000学会の演題情報を収載する「学会演題データベース（以下、学会演題DB）」と国内雑誌約480誌、海外雑誌13誌からの情報を収載する「医薬文献データベース（以下、医薬文献DB）」の2つで検索しました。

該当の情報は2022年6月更新分までの収載件数が全部で1,501件であり、学会演題DBでは1,084件、医薬文献DBでは417件（うち海外雑誌情報は271件）という結果になりました。

情報収載量の月別の推移を見てみます。Fig.1は学会開催月および雑誌発刊月毎の文献収載数をグラフ化したものです。2022年以降の情報につきましてはデータベースに収載途中のため、今回は2021年12月までの情報としました。



iyakuSearch上において海外のワクチン関連情報は2020年8月発表分から、国内の情報は2020年12月発表分から収載され始め、そこから文献収載数が増え、2021年11月、12月には月200件を超えました。また、国内におけるワクチン投与症例が初めてiyakuSearchに収載されたのは2021年5月発表分であり、それ以前のはワクチンの開発報告でした。

ワクチン接種後の有害反応として、例えば2021年5月3日～6日開催のファーマコビジランスリスク評価委員会（PRAC）の会合において、EMAがワクチン接種後の心筋炎および心膜炎について報告しています<sup>1)</sup>。その後日本でも厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会において報告されています<sup>2)</sup>。



ここでヒットした医薬品名はすべて「コロナウイルスワクチン」を検索語として医薬文献DB、学会演題DBを検索した際に検索される医薬品名となります。「コロナウイルスワクチン」と検索することで一般名や商品名、治験名を含むワクチンが索引された文献すべて検索対象に含まれることになり、網羅的な検索が可能になります。また、今回は広くワクチンの情報を収集するために「コロナウイルスワクチン」を検索語として設定しましたが、商品名、治験名、INNなどで医薬文献DB、学会演題DBを検索することも可能です。その際には、「医薬品名索引」の検索結果の医薬品名を検索語として用いることで、精度の高い検索を行うことができます。検索語に迷った際にはぜひこの「医薬品名索引」をご活用下さい。

今回はiyakuSearchの「医薬文献・学会演題情報」における新型コロナウイルスワクチン情報の検索結果および検索方法についてご紹介いたしました。

皆様の情報収集の一助になれば幸いです。

1) <https://www.ema.europa.eu/en/news/meeting-highlights-pharmacovigilance-risk-assessment-committee-prac-3-6-may-2021>

2) [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_19515.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_19515.html), [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_19142.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_19142.html)

iyakuSearchへはこちらからアクセスできます

<https://database.japic.or.jp/is/top/index.jsp>

# くすりの散歩道

no.146



## ゆるめる10分さんぽ

(一財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当

湯原 瑞紀 Yuhara Mizuki

「ちょっと力入れ過ぎ!考え過ぎだよ~」  
と、よく言われる子どもでした。なんでも一生懸命やるのですが、肩の力を抜くのは苦手…。そんな私も年を重ね、ただがむしゃらに突き進めばいいわけではないこと、ほっとひと息つく時間が、より人生を豊かなものにするのに、最近やっと気が付き始めました。とはいえ、がむしゃら人間だった後遺症(?)で、ただゴロゴロしているのはなんとなく罪悪感を覚えてしまう…。

そこで、注目したのは「積極的休養」でした。

積極的休養とは、「体を動かすことによって疲労回復をはかる方法」です。運動によって血液循環を良くすると老廃物の排出が促されるため、「消極的休養=横たわる」よりも疲労回復効果があることが多くの実験により示されています。また、運動中にはセロトニンが増え、ストレスホルモンであるコルチゾールが減るので、心身共にリラックスすることもわかってきました。ここまではなんとなく想像の範囲内ですが、そればかりか、運動による成長ホルモンの分泌は脳にも刺激を与え、大人でも認知能力を高めたり、記憶力をアップしたりと、脳神経の発達に役立つそうです。ほかにも多くの脳内物質が活性化するため、エネルギーが湧き、不安が和らぎ、ひととの絆が深まるなど、意外な側面についても研究が進んでいます。色んな意味で、「今の私に必要なのは運動だ!」と確信したものの、赤ちゃんを子育て中でもあった当初、まとまった時間がとれないのが悩みでした。

そこで、まず始めたのは「10分さんぽ」です。

あまりに自分の時間がとれずにストレスがたまり、早朝に目が覚めた際に「10分だけ…」と家を抜け出したのがきっかけでした(早朝であれば、万が一子どもが起きて泣いても夫がみてくれるという想定のもと)。近所の緑が多い公園をぐるっと早歩きでひと回り。10分間ただ黙々と歩く、それだけでしたが、目の前のことでいっぱいになっていた気持ちがずっと軽くなりました。久々のひとり時間だったので、その解放感もあったのでしょうか。でも、なんだかそれだけでは説明できない爽快感だったことをよく覚えています。

空の青、樹々の緑が美しいこと、体がちゃんと動いて歩けること。歩きながら、あたりまえだと思っていた様々な事象に改めて気づき、身の回りの人々や自分の

体への感謝の気持ちが自然とわきました。おかげさかもしれないませんが、この世界と自分とのつながりを確かに感じ、とても幸せな気持ちになっていました。日々、動き回る子どもを追いかける生活ではありましたが、自分のために運動する習慣がなかったことが、ストレスをため、視野をせばめていた原因のひとつだったと改めて実感したのでした。

それまで短い時間では運動の効果は得られないと思いついていましたが、自分にとって「気持ちをゆるめる」という目的であれば時間は関係ないこともわかりました。それからは、折をみては10分さんぽを取り入れています。

10分さんぽの自分なりのポイントは以下の3点です。

- ・あまり考えごとをしない(歩きながら瞑想するイメージ)
- ・季節の移り変わりや自然の美しさを楽しめるコースにする(世界とのつながりを感じる)
- ・なるべく早歩きにして心拍数を上げる(成長ホルモンupのため)

その後、運動による「心と体をゆるめる効果」に感動した私は、ずっと気になっていたヨガも始めてみました。このご時世になり、さらに意識しないと体を動かさない生活が続いていたのもありますが、逆にオンラインで気軽にヨガを学べるようになり、マイペースに楽しく運動を取り入れる習慣ができてきました。ここでも、難しいポーズができるようになるというよりは自分の内面と向き合い、柔軟で疲れにくい心と体を手に入れるためのツールとして、日々の生活に無理なく取り入れています。

10~20代の頃も運動は体にいいことは知っていましたが、ダイエット目的で運動したこともありましたが、なかなか長続きしませんでした。でも、今の自分にとって隙間時間の「ゆるめる運動」は視野を広め、自分らしさを取り戻すための大切な時間。もちろん、劇的に痩せたりはしませんが、それよりもストレスを減らし、毎日を笑顔で過ごせることに重点を置いて、今後もコツコツ、ゆるゆると続けていきたいです。

参考文献:

- ・ケリー・マクゴニガル 著、神崎朗子 訳『スタンフォード式人生を変える運動の科学』大和書房、2020。
- ・ジョン J.レイティ、エリック・ヘイガーマン 著、野中香方子 訳『脳を鍛えるには運動しかない! 最新科学でわかった脳細胞の増やし方』日本放送出版協会、2009。

## 7月末発売!

### JAPIC「医療用・一般用医薬品集インストール版2022年7月版」

- ◇医療用および一般用医薬品の添付文書情報を収録したWindows対応CD-ROM。  
(2022年6月までのJAPIC入手分を収録)
- ◇製品情報、医薬品集本文データの検索・表示・印刷・データ出力が可能。  
データ出力形式は、タブ区切り/カンマ区切りテキスト(csv)から選択できます。
- ◇薬価、先発品等/後発品情報、規制区分、剤形、添加物、  
薬剤識別コード情報なども収録し、さまざまな角度から検索できます。
- ◇完全インストール仕様により、スピーディな検索・結果表示を実現。  
インターネット環境のない薬剤モニタリング業務などにも最適です。
- ◇インターネット経由で、最新の添付文書PDFの表示も可能です。  
(医療用:週1回更新、一般用:月1回更新)

- ◆価格:単回 14,300円(税込)  
年間セット4枚(7月・10月・1月・4月) 26,186円(税込)

〔お問合せ先〕

事務局 渉外担当 (TEL:0120-181-276、FAX:0120-181-461)



### JAPIC「OTC医薬品CD-ROM 2022年7月版」

- ◇一般用医薬品(一部の医薬部外品含む)の添付文書記載情報  
(2022年6月までのJAPIC入手分)を収録したWindows対応CD-ROM。
- ◇一般用医薬品データの検索・表示・印刷・テキストデータ出力が可能。
- ◇「要指導医薬品」(スイッチ直後品目・劇薬等)も掲載しております。
- ◇検索項目は、成分名、添加物、リスク区分や小児に使える医薬品等。
- ◇インターネット経由で、添付文書PDFの表示も可能です。
- ◇JANコードによる製品直接表示機能も搭載。

- ◆価格:3,300円(税込)  
〔年1回発行(次回発行は2023年7月予定)〕

〔お問合せ先〕

事務局 渉外担当 (TEL:0120-181-276、FAX:0120-181-461)



## 医薬品集発刊!

### JAPIC「医療用医薬品集2023」CD-ROM付 9月初旬発刊

#### ◆6月の後発品収載に対応◆

《本書の特長》

- ◇2022年5月の新薬収載、6月の後発品収載分までの医療用医薬品を網羅（約21,000製品）
- ◇医療用医薬品添付文書情報を有効成分（約2,300成分）ごとにまとめて掲載。  
約1,500成分については「構造式」も掲載
- ◇先発品（またはそれに準じるとされる医薬品）と後発品及び局方品が明確に  
区別できるように記載
- ◇同一成分内での剤形の違い・製品の違いにより効能・効果が異なる場合はその違いを明記
- ◇医療用医薬品添付文書情報・一般用医薬品添付文書情報・医療用医薬品識別コード情報を収録し、  
最新医療用医薬品添付文書へのリンク機能\*を搭載した検索性CD-ROM（インストール版）を添付  
\*インターネットを經由してJAPICが運営するiyakuSearch掲載の添付文書PDFを表示
- ◇本文2分冊+その他（付録、薬剤識別コード）1冊の3分冊を予定

◆価格：14,300円（税込）・B5判

〔お問合せ先〕事務局 渉外担当（TEL：0120-181-276、FAX：0120-181-461）



### JAPIC「一般用医薬品集2023」 9月初旬発刊

《本書の特長》

- ◇国内流通の一般用医薬品をほぼ全て網羅（約10,000製品収録）
- ◇「要指導医薬品」（スイッチ直後品目・劇薬等）も掲載
- ◇最新の添付文書を日本製薬団体連合会の委託を受け収集
- ◇付録に重篤副作用疾患別対応マニュアル、国内副作用報告の状況、リスク区分情報等を収録

◆価格：9,900円（税込）・B5判

〔お問合せ先〕事務局 渉外担当（TEL：0120-181-276、FAX：0120-181-461）



### JAPIC「医療用医薬品集 薬剤識別コード一覧 2023」8月発刊

《本書の特長》

- ◇識別コードから薬剤の商品名を調べられる一冊
- ◇医療用医薬品集掲載の医薬品のうち添付文書に識別コード・包装コードの記載のある品目を掲載
- ◇掲載項目は識別コード、色・割線、商品名（会社名）、一般名、規格単位、  
薬効からなり、医療用医薬品集本文の掲載ページも記載
- ◇薬剤識別コードの数字順、英字順、マーク順に配列

◆価格：1,100円（税込）・B5判

〔お問合せ先〕事務局 渉外担当（TEL：0120-181-276、FAX：0120-181-461）



# 外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より－(抜粋)

2022年5月1日～5月31日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No.851-854) の記事から抜粋

## ■米FDA

- Medtronic, 使用中にカプセルが破損するリスクのため、経カテーテル肺動脈弁 (TPV) システムの一部であるHarmony Delivery Catheterをリコール  
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/medtronic-recalls-harmony-delivery-catheter-part-transcatheter-pulmonary-valve-tpv-system-risk>>
- Celltrion USA, 承認されていない非CLIA 認定ユーザーに流通した可能性がある、特定のポイント・オブ・ケア (POC) DiaTrust COVID 19 Ag Rapid Test Kits をリコール  
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/celltrion-usa-recalls-certain-point-care-diastrust-covid-19-ag-rapid-test-kits-which-may-have-been>>
- Class I Recall Mesa Biotech Inc., 汚染による偽陽性のリスクのため特定のAccula SARS CoV 2 Testをリコール  
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/mesa-biotech-inc-recalls-certain-accula-sars-cov-2-tests-risk-false-positives-caused-contamination>>
- Class I Recall: Woodside Acquisitions Inc., 米FDAによる承認等を受けていないOral Rapid SARS-CoV-2 Antigen Rapid Test KitsおよびJoysbio SARS-CoV-2 Antigen Rapid Test Kits (Colloidal Gold) をリコール  
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/woodside-acquisitions-inc-recalls-oral-rapid-sars-cov-2-antigen-rapid-test-kits-and-joysbio-sars-cov-2>>
- Class I Recall: Avanos Medical, 不適切に設置された経腸チューブが患者への害を引き起こすリスクのためCortrak\*2 経腸アクセスシステムをリコール (更新情報)  
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/avanos-medical-recalls-cortrak2-enteral-access-system-risk-misplaced-enteral-tubes-could-cause>>
- 緊急の自主的リコール: CorneaGen Sclera / Scleral Patch Grafts; CorneaGen, (ロット番号) W419221008338から得られたScleral Patch Graftsの全ロットを自主的リコール  
<<https://www.fda.gov/vaccines-blood-biologics/recalls/urgent-voluntary-recall-corneagen-sclera-scleral-patch-grafts-corneagen-voluntarily-recalling-entire>>

## ■英MHRA

- Denosumab 60mg (Prolia) : 重篤な高カルシウム血症のリスクのため18歳未満の患者に対して使用すべきでない  
<<https://www.gov.uk/drug-safety-update/denosumab-60mg-prolia-should-not-be-used-in-patients-under-18-years-due-to-the-risk-of-serious-hypercalcaemia>>

## ■豪TGA

- clozapine: Safety advisory－便秘: 潜在的に重篤な副作用  
<<https://www.tga.gov.au/alert/clozapine>>

## ■シンガポール HSA

- amoxicillinと無菌性髄膜炎のリスク  
<<https://www.hsa.gov.sg/announcements/safety-alert/amoxicillin-and-risk-of-aseptic-meningitis>>

## ■医薬品医療機器総合機構

- 不妊治療に用いられる医薬品による卵巣過剰刺激症候群について  
<<https://www.pmda.go.jp/files/000246249.pdf>>
- 医療機器の回収に関する情報 (2022年度・クラスI) (販売名:クックエンボライゼーションコイル)  
<<https://www.pmda.go.jp/files/000246335.pdf>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報 (海外) 担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料) もしくはJAPIC WEEKLY NEWS (無料) のサービスをご利用ください (JAPICホームページのサービス紹介: <<https://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供をご希望の医療機関・大学の方は、事務局 渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。

この情報は附属図書館の蔵書検索 (<https://tech.libblabo.jp:53081/blabo/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧いただけます。

これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。

閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越しください。

〈配列は洋書、和書別に書名のアルファベット順、五十音順〉

書名	著者	出版者	出版年月
AHFS Drug Information 2022	American Society of Health-System Pharmacists	American Society of Health-System Pharmacists	2022年
British Pharmacopoeia 2022	British Pharmacopoeia Commission	The Stationery Office	2021年
The Japanese Pharmacopoeia Eighteenth edition (JP XVⅢ)	The Ministry of Health, Labour and Welfare	The Ministry of Health, Labour and Welfare	2021年

## 情報提供一覧

2022年6月1日～6月30日提供

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合はJAPIC 事務局 渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせください。

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch〉 Free	<a href="https://database.japic.or.jp/">https://database.japic.or.jp/</a>
1. 「一般用医薬品 (経済課コード)」 2022年5月分 (HP定期更新情報掲載)	6月 1日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. 「JAPIC NEWS」 No.458 2022年7月号	6月30日	2. 学会演題情報	月 1 回
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (郵送、電子メール等で提供)		3. 医療用医薬品添付文書情報	毎 週
1. 「JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報」	毎 週	4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
2. 「医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)」	毎 週	5. 臨床試験情報	随 時
3. 「JAPIC-Q Plusサービス」	月 1 回	6. 日本の新薬	随 時
4. 「JAPIC-Q 医療機器情報サービス」	月 2 回	7. 学会開催情報	月 2 回
5. 「外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)」	毎 日	8. 医薬品類似名称検索	随 時
6. 「JAPIC Weekly News」	毎 週	9. 効能効果の対応標準病名	月 1 回
7. 「感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)」	毎 週	〈iyakuSearchPlus〉	<a href="https://database.japic.or.jp/">https://database.japic.or.jp/</a>
		1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
		2. 学会演題情報プラス	月 1 回
		3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日
		外部機関から提供しているJAPICデータベース	
		〈株式会社ジー・サーチJDreamⅢから提供〉	<a href="https://jdream3.com/">https://jdream3.com/</a>
		〈株式会社日本経済新聞社から提供〉	<a href="https://telecom.nikkei.co.jp/">https://telecom.nikkei.co.jp/</a>

JAPIC

医療用

医薬品集 2023



赤ジャピ50年の伝統を守り  
薬剤師を中心とした  
専門のスタッフが丁寧に作成しています。

2022年9月  
発刊予定



本書の特長

- ◆2022年6月後発品まで収載
- ◆約50年の編集実績による信頼と使いやすさ
- ◆国内流通全医薬品の最新で正確な添付文書情報をお届けします！
- ◆「薬剤識別コード一覧」を収載
- ◆更新情報メールの無料提供（要登録）
- ◆CD-ROM付
- ◆分冊にて製作（ケース入り）

Windows版

CD-ROM収録内容

- 医療用医薬品集
- 一般用医薬品集
- 薬剤識別コード一覧
- 薬価情報
- 後発品の全情報
- 添加物情報
- 最新添付文書画像(PDF)の表示機能付

要インターネット接続。医療用医薬品は週1回、一般用医薬品は月1回更新

14,300円(税込) B5判 約4,400頁(本文)

一般財団法人 日本医薬情報センター JAPIC 編集・発行  
丸善出版株式会社 発売

上記書籍の他、電子カルテやオーダーリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データおよび病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。



このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

やなぎたんぽぽ

「柳蒲公英」と書く。学名:Hieracium umbellatum L.  
英名:Shaggy Hawkweed. ドイツ語名:Das Doldige Habichtskraut.  
きく科やなぎたんぽぽ属。多年性草本。スイスのWallis州原産、珪質岩地帯で標高1,000~3,000mの草地等に生える。花期は5月~7月、茎の先端部に黄色い舌状花を付ける。種子を付ける。  
Isoflavone系Irigenin(抗炎症活性)等含有。(hy)



JAPICホームページより  
<https://www.japic.or.jp/>

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。